

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	平成20年度専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業 (社会人のキャリアアップ教育プログラム)		
事業名	薬事法改正に伴う新資格「登録販売者」試験対策講座		
法人名	学校法人 国際総合学園		
学校名	国際メディカル専門学校		
代表者	理事長 池田 弘	担当者 連絡先	白倉 政典(国際メディカル専門学校) 025(255)1511
<p>1. 事業の概要</p> <p>登録販売者試験に出題される5つの分野①「医薬品に共通する特性と基本的な知識」②「人体の働きと医薬品」③主な医薬品とその作用④薬事関係法規・制度⑤医薬品の適正使用・安全対策を日本薬業研修センターの教材を使用し、講義および模擬試験・答案練習を加えて実施する。対象者は過去に医薬品販売業等に1年以上従事した経験のある(受験資格のある者)者とし、現に、医薬品販売業に従事している者も含むため、講座開講時間帯は18:00～21:10までとする。また、実施時期は当該試験が今年度年2回(8月12日、12月25日)のため、後半試験に向け10月開講11月末までの2ヶ月間とする。</p> <p>1、講座名 薬事法改正に伴う新資格「登録販売者」試験対策講座</p> <p>2、期間 平成20年10月1日(水)～11月28日(金) 2ヶ月間 授業時間 月～金 18:00～21:10 2コマ(1コマ90分)3時間 1日3時間×40日=120時間</p> <p>3、授業科目 上記①～⑤の5分野 各分野 2日～8日</p> <p>4、使用テキスト 日本薬業研修センター監修テキストセット 教材費(受講者負担) 10,000円(受験テキスト教材費8,500円、プリント代1,500円)</p> <p>5、講師 各授業分野に1～3人(大学教員)</p> <p>6、講座の目標・受講生 厚生労働省の発表している「試験問題作成に関する手引き」の内容をテキストに準じ、重要項目を分かりやすく説明する。講義+演習問題、模擬テストで実力を確認し、受講生全員を試験合格に導くことを目標とする。受講生はドラッグストア等で医薬品販売業務に1年以上携わった経験を有する者。現に、医薬品販売業に従事している者。</p>			

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

募集定員30名に対して実際の受講生は12名であった。40%の定員充足率。本年度第2回目の試験に向けた講座であったこと、現在勤務者対象の試験のため毎日18:00からの講座が通いにくかったこと等が考えられる。登録販売者試験受験結果は合格率50%（県全体合格率58%）今回の講座を通じて、テキストの内容は分かりやすいとの声があった。講義＋問題練習の形式はよいがよりより応用力をつけるため、実際問題での練習が必要。今年度からの試験であるため、今後過去問題の蓄積が増える中で、より要点を絞った出題傾向に則した内容にしていきたい。

②事業により得られた成果

今年度初めて実施の新資格試験「登録販売者試験」の合格対策講座として、直前期により効果的な授業プログラムを組み立て、受講生の満足度を高めかつ合格に導くねらいのもとその効果を検証することとした。講座受講者は定員30名のところ、12名（男3名、女9名）。ほとんどが初学者。薬局勤務10名、一般医薬品販売、薬品配置販売業各1名。20代4名、30代4名、40代2名、50代2名。受講理由は自分の意志75%その他は会社の指示。講座内容の満足度は54%が大変満足・ほぼ満足。1名やや不満の者も仕事でなかなか出席できなかつたと自己理由による。もし有料講座として受講する場合、講座内容は通学制で基礎から応用までの講義形式、2ヶ月以内で週3日程度1日あたり2～3時間を希望する者が多かつた。

③今後の活用

今年度初めて実施された資格試験であり、テキスト・問題集・授業時間数等の適否、妥当性を判断する材料がなかつたが、今回の講座を通じて、テキスト・問題集の使いやすさ、單元ごとにかかるべき時間数等受講生の声、達成状況を見ながら再度検討すべき項目も抽出できた。受講生ニーズの把握を更に進め今後の同種講座の企画に生かして生きたい。

④次年度以降における課題・展開

「登録販売者」資格者の必要とされる人数は平成21年までに約7万人とも言われ、その資格者の養成が求められている。つまり、この専門資格を取得することで、過去に医薬品販売に携わった方の更なるスキルアップが図れる。医薬品販売を担う企業は薬局、ドラッグストアのみならず、今後はスーパー、コンビニエンスストア等拡大が見込まれる。それだけに、この資格は今後とも注目されることになると思われる。この試験制度がスタートした今年度において、第1回試験が、県内だけで775人、第2回 510人の受験者であった。合格率は、県内では第1回75%、第2回58%である。今回の講座は本年度第2回に向けた対策講座であった。試験まで2ヶ月前という直前期で準備として初学者であり独学では不安を持つ者が受講生の殆どである。次年度以降も受験対策講座のニーズはあると思われる。一方、今回は夜間コースの設定であったが、現実の勤務時間の終了時刻と講座開始時刻が重なることもあり、受講しにくいとの声もあった。今後、土日コース、短期コース等受講生の要望を探りながら検討していく。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

履修証明書が発行できる基準としての120時間の講座を計画したので、学校教育法第105条の規定に基づき履修証明書を発行した。全体の3分の2以上の出席者を履修証明書発行基準とし、講座終了時点で該当者6名が履修証明書を受けた。ジョブカードに関する説明は講座開始前のオリエンテーション時と、講座終了時、履修証明書授与に際して行った。

②カリキュラムの内容

登録販売者試験出題の5つの分野について授業担当をいただく大学教授等と総時間内での単元ごとの重要性に基づく時間配分とインプットとしての知識の定着を図るアウトプットとしての問題練習等の組み立てを検討し以下のように実施した。①「医薬品に共通する特性と基本的な知識」②「人体の働きと医薬品」③主な医薬品とその作用④薬事関係法規・制度⑤医薬品の適正使用・安全対策⑥その他(問題演習)で実施。テキストは日本薬業研修センターの教材を使用し、講義および問題練習、過去問答案練習を加えて実施した。

③講座の実施

登録販売者試験出題の5つの分野①「医薬品に共通する特性と基本的な知識」②「人体の働きと医薬品」③主な医薬品とその作用④薬事関係法規・制度⑤医薬品の適正使用・安全対策⑥その他(問題演習)で実施。日本薬業研修センターの教材を使用し、講義および問題練習、過去問答案練習を加えて実施した。受講対象者は過去に医薬品販売業等に1年以上従事した経験のある(受験資格のある者)者、現に、医薬品販売業に従事している者。9月22日(月)講座説明会およびオリエンテーション10月1日(水)より授業開始、11月28日(金)終了。受講生は12月25日(木)の第2回登録販売者試験を受験を目標とした。

④支援対象者(受講者)の状況

講座受講者は定員30名のところ、12名(男3名、女9名)。薬局勤務10名、一般医薬品販売、薬品配置販売業各1名。20代4名、30代4名、40代2名、50代2名。受講理由は自分の意志75%その他は会社の指示。講座内容の満足度は54%が大変満足・ほぼ満足。1名やや不満の者も仕事でなかなか出席できなかったと自己理由による。出席状況は皆勤出席1名、全体の3分の2以上の出席者を履修証明書発行基準とし、6名が履修証明書を受けた。登録販売者試験受験結果は、受験生合格率50%であった。(県全体合格率58%)